

論文概要の和文様式

雑誌におけるタイトル: Population attributable fractions of modifiable risk factors for nonsyndromic orofacial clefts: a prospective cohort study from the Japan Environment and Children's Study

和文タイトル: 口唇口蓋裂の発生に関連する既知の危険要因の人口寄与割合

ユニットセンター(UC)等名: 北海道UC

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: Journal of Epidemiology

年: 2020 月: 4 巻: 頁:

筆頭著者名: 佐藤 遊洋

所属UC名: 北海道UC

目的:

本研究の目的は、口唇口蓋裂の既知のリスクファクター(母親の妊娠中の精神的ストレス、飲酒状況、喫煙状況、受動喫煙状況、ボディマス指数、葉酸サプリメントの服用状況)の人口寄与割合を算出することである。

方法:

調査に参加した94,174名の母親とその出生児が解析の対象となった。独立変数である、母親の妊娠中の精神的ストレス、喫煙状況、受動喫煙状況、葉酸サプリメントの服用状況は妊娠第一期の質問紙調査および対面調査から得た。飲酒状況は妊娠第二期の質問紙調査を得た。母親のボディマス指数は診療録から得た。共変量は母親の年齢、出生児の性別、出生順序、母親の教育歴、年間世帯収入であった。

結果:

口蓋裂が伴うまたは伴わない口唇裂(CL±P)を有した出生児は146例、口蓋裂(口唇裂は伴わない)(CP)を有した出生児は41例であった。CL±Pを有した出生児において、飲酒状況を除く、母親の妊娠中の精神的ストレス、喫煙状況、受動喫煙状況、ボディマス指数、葉酸サプリメントの服用状況の人口寄与割合の合計は34.3%であった。葉酸サプリメントの不使用が最も高い人口寄与割合を示し、次いで能動喫煙と受動喫煙が高い値を示した。CPを有した出生児では人数が少なかったため解析を行えなかった。

考察:(研究の限界を含める)

本研究はいくつかの限界を有している。1つは、統計学的に有意な関連を示すことが出来なかった。しかし、本研究の解析結果はこれまでに報告されている研究結果と同様な傾向を示した。2つ目は、本研究では遺伝的要因が含まれていなかった。今後の研究では口唇口蓋裂に影響する遺伝的要因も含めて検討する必要がある。本研究の優れた点は、我々の知る限り本研究が初めて母親の受動喫煙のCL±Pに対する人口寄与割合を報告した。母親の受動喫煙の人口寄与割合は葉酸サプリメントの不使用に次いで、高い値であった。また、アメリカで行われた先行研究と比較すると、葉酸サプリメントの不使用と能動喫煙の人口寄与割合はより高い値を示していた。

結論:

CL±Pを有した出生児において、飲酒状況を除く、母親の妊娠中の精神的ストレス、喫煙状況、受動喫煙状況、ボディマス指数、葉酸サプリメントの服用状況の人口寄与割合の合計は34.3%であった。特に葉酸サプリメントの服用の推奨や禁煙、受動喫煙防止はCL±Pの予防に有効かもしれない。